| フェーズ | 日付 | 日本時間 | プログラム | プログラム詳細 | 使用言語 | 所属 | 講師氏名 | 専門 |
|-----------|-----------------------|---------------------|---------------------------------------|--|----------------|---------------------------------------|----------------------|----------------------------|
| | | 14:00 ~ | 開会式・オリエ | _ | - | / / / / / / / / / / / / / / / / / / / | - | - 1 1 J |
| フェーズ 1 | 2024年 1月30日 (火) | 14:30 14:30 ~ | ンテーション | 【講義】 ・概説:学際研究とは何か。何故、分野を超えた研究協力が必要なのか。 ・最終日の発表会への意識付け | 日本語 | 東京大学 | 園田 茂人氏 | 中国社会論、比 |
| | 2024年 | 17:00 | 参加者来日 | 【事務連絡(来日にあたって)】 【参加者間交流】 ・4~5人ごとにブレイクルームに振り分け、交流を行う。 | _ | - | _ | 較社会学 - - - |
| | 2/19(月) | | 200 E / C | | | | | |
| | 2024年 2/20(火) | 10:30 ~ 12:30 | 到着時オリエン テーション アイスブレイク グループ発表 | - | - | - | - | - |
| | | | | | | 京都大学 | AA 1 +5 14 or | |
| | | 14:00 ~ 17:00 | 「研究者」を考える | 【講義】 ・そもそも、研究者とは何か。何故研究をするのか。自身の研究の社会的意義をどう設定するか。研究者が社会に対して負う役割とは何か。研究者以外(出版社、編集者)の視点からとらえた研究者とは。 【ワーク】 ・講義での問いかけを受け、自身の研究についてその社会的意義を説明する - | | 学術出版会 東京大学 | 鈴木哲也氏 ガータイス氏 | - 東アジア近現代 史 |
| | | | | | | | 未定 | |
| | | 17:30 ~ 19:30 | 歓迎夕食会 | | | - | - | - |
| | 2024年 2/21(水) | 10:00~12:00 | グループワーク | 各グループ最終課題の準備 | | | | |
| | | 13:00 ~ 17:00 | (大学訪問) | 【都内の大学・研究機関の協力】 ・学生とランチ交流 ・大学で行う"国際日本研究"について ・大学所属の学生とのディスカッション(研究の組み立て、手法等を相互に発表) ・サイトビジット ・学内施設の紹介等 | 日本語英語 | 東京大学 | 園田 茂人氏 | 中国社会論、比較社会学 |
| | 2024年 2/22(木) | 10:00 ~ 12:30 | (国会図書館見学) | ・館内 (本館、新館) 見学 新刊書庫見学 | - | - | - | - |
| | | 13:30 ~ 17:00 | 申請書の書き方と研究デザイン | 【講義・ワーク】 ・奨学金等に申請する際の申請書の書き方講座 ・申請書添削 ・自分の研究を如何に意義あるものとして説明するのか。説得力のある研究デザインとはどんなものか。 | 日本語 | 東京大学 | 園田 茂人氏 | 中国社会論、比較社会学 |
| | 2024年 2/23(金) | 10:00 ~ 13:00 | オリジナリティ の見つけ方 | 【講義】 | | 東京大学 | 赤川学氏 | 社会学 |
| フェーズ 2 | | | | ・自分の研究に合った研究方法の選び方。講師はどのような経緯で現在の研究 内容・研究方法に至ったか ・先行研究をふまえて、どの部分であれば自身のオリジナリティを出せるか、 また他の分野とどのように関わっているか。 ・研究のオリジナリティと協働研究の実践。 | | 名古屋大学 | 日比嘉高氏 | 歴史社会学 日本近現代文学 文化論 |
| | | | | 【ワーク】 ・自分の研究のオリジナリティは何か ・自分の研究でカバーできない部分は何か。そこをどう補っていくか。 | | 東京大学 | 園田 茂人氏 (モデレーター) | 中国社会論、比較社会学 |
| | | 13:30 ~ 17:00 | 中間発表 | | - | - | - | - |
| | 2024年 2/24(土) | - | 発表準備(グ ループワーク・ 資料収集等) | 各グループ最終課題の準備 | - | - | - | - |
| | 2024年 2/25(日) | - | 発表準備 (グ ループワーク・ 資料収集等) | 各グループ最終課題の準備 | - | - | - | - |
| | 2024年 2/26(月) | 10:30 ~ 15:00 | | 【講義】 ・各講師のパーソナルヒストリーを紹介、なぜ日本を研究するに至ったか | | 慶熙大学 | KIM, Miyoung先 生 | 国際関係論 |
| | | | | ・どういった学会で活動してきたか ・現在に至るまでの国際的な研究の繋がり | | 復旦大学 | 王 広涛先生 | 国際関係論 |
| | | | | ・いままで直面した壁とその打開方法 ・若手研究者としての心得(所属機関における役割等々) 【座談会】 | 日本語 英語 | 東洋大学 | ズルエタ・ ジョハンナ先生 | 社会学 |
| | | | | ・前半の各講師の紹介を受け、若手、シニアの立場から「研究者」としての国際協働研究について、全講師による座談会を実施 | | ダッカ大学 | JAHANGIR, Alam 先生 | 日本研究 |
| | | | | | | 東京大学 | 園田 茂人氏(モデレーター) | 中国社会論、比 較社会学 |
| | | 15:00 ~ 17:00 | グループワーク | 各グループ最終課題の準備 | - | - | - | - |
| | 2024年 2/27(火) | 10:00 ~ 17:00 | 最終発表会 | ・グループごとに発表(国際学会参加を想定し、模擬パネル発表) ・講師からの講評(実際にAASに応募する際の具体的アドバイス) ・本ワークショップ全体統括 | 日本語 英語 - | 東京大学 | 園田 茂人氏 | 中国社会論、比 較社会学 東アジア近現代 |
| | | 17:30 ~ | 歓送レセプション | | | 東京大学 | ガータイス氏 - | 東アンチ近郊N 史 - |
| | | 20:00 | × | | | | | |
| | 2023年 2/28(水) | - | 参加者帰国 | - | - | - | - | - |